

古屋哲夫の足跡

元京都大学人文科学研究所教授

『帝国議会誌』第1巻

1975年6月

第五回帝国議会 貴族院・衆議院解説

古屋 哲夫

[第五回帝国議会 貴族院解説](#)

第五回帝国議会 衆議院解説

第五回帝国議会 衆議院解説

[1衆議院議員の選挙](#)

[2衆議院と政党](#)

3 第五回議会

3 第五回議会

[最初の普通選挙](#)

[選挙干渉問題](#)

[多数派工作と小会派](#)

[三・一五事件と労働農民党の結社禁止](#)

[第五回特別議会の召集](#)

[三つの「国難」決議案](#)

3 第五回議会

最初の普通選挙

昭和2（1927）年回12月26日に開会された第五回議会在解散されることは必至であった。与党政友会は、政友本党の一部が復帰したため190名に達したが、憲政会・政友本党が合同した民政党は、219名の多数を確保して

いた。また議員の任期も翌年5月で満了することになっており、もはや解放回避を策する余地はなかった。従って政府・与党は適當の機会をとらえて衆議院の解散を断行せんとしていた。開会の翌日12月27日、緊急案件として即位大礼関係追加予算を満場一致で可決した衆議院は、1月21日まで年末年始の休会にはいった。この間各党派とも総選挙準備に奔走することになる。

すでに、院内団体新正倶楽部所属議員のうち旧革新倶楽部系の清瀬一郎・大竹貫一らは独自の選挙運動を行うため、前議会終了直後の昭和2年6月3日、革新党を結成していた。また無産政党の間では、日労党の提唱に労働・社民両党が応じて、1月16日三党による無産政党選挙協定協議会が発足し、対立候補のない地区では単一候補を各党一致して応援する、対立候補のある場合でも、互に他党の攻撃をしない、選挙干渉には共同で抗議することなどが協定された。農民党はこの協定には参加しなかったが、日労党との間で単独に協力の話し合いをすすめた。こうした選挙協定の動きは、前年の府県会議員選挙の際にはみられなかったものであるが、しかし地盤協定・対立候補者の調整は容易でなく、結局多くの選挙区で無産党候補者が対立する結果となった。一方政府側では、1月10日知事・県内務部長・警察部長ら35名に及ぶ大移動を行って、選挙戦の準備をととのえ、野党側は選挙干渉に強い警戒を示していた。

昭和3年1月21日、休会明けの衆議院には民政党から内閣不信任案を提出したが、政府側は田中首相兼外相、三土蔵相の施政方針演説が終わるや、質疑の機会を与えず、直ちに衆議院を解散した。総選挙は2月20日に実施されたが、大正14年に改正された新選挙法により、はじめて男子普通選挙権が行使される点で画期的なものとして注目された。定員466名に対して、立候補者965名、競争率2倍強で争われたが、結果は、217対216と与党政友会が民政党をわずか1名上回ったにとどまり政局は小会派の動向に左右されることになった。しかも得票数では民政党が政友会をおさえており、いかに田中内閣が不評であったかが知られる。また注目された無産政党も当選者8名、得票率5%弱であり、普通選挙権もそれだけでは、ただちに政局に大変動をもたらさないことを示していた。

このうち無産政党の当選者は次の通りであり、日本農民党は当選者を出せなかった。

社会民衆党、4名 — 安部磯雄（東京一区）西尾末広（大阪三区）・鈴木文治（大阪四区）・亀井貫一郎（福岡一区）

労働農民党、2名 ―水谷長三郎（京都一区）・山本宣治（京都二区）

日本労農党、1名 ―河上丈太郎（兵庫一区）

九州民憲党、1名 ―浅原健三（福岡一区）

なお無産四党中の得票数では、労働農民党がリードしていた。

労働農民党 193, 028票

社会民衆党 128, 756票

日本労農等 86, 975票

日本農民等 46, 180票

選挙結果

	立候補数	当選者数	得票数
政友会	342名	217名	4, 244, 385名
民政党	342	216	4, 256, 010
実業同志会	31	4	166, 250
革新党	15	3	81, 324
無産政党	82	8	462, 288
中立その他	153	18	655, 936
総計	965	466	9, 866, 196

※無産政党は労働農民党・社会民衆党・日本労農党・日本農民党・九州民衆党の合計。

第一六回総選挙当選者一覧表（昭和3年2月20日）

選挙区名の下の数値は有権者総数

	得票数	党派	新旧前	候補者氏名
東京一区	101, 054			
	13, 305	民政	前	横山 勝太郎
	10, 517	民政	新	瀬川 光行

	9, 114	民政	前	三木	武吉
	8, 459	政友	新	立川	太郎
	8, 331	民政	新	桜内	辰郎
東京二区	104, 381				
	14, 681	民政	新	中島	弥団次
	12, 969	政友	前	鳩山	一郎
	12, 373	社民	新	安部	磯雄
	9, 078	政友	前	矢野	鉉吉
	7, 472	民政	新	小滝	辰雄
東京三区	85, 739				
	15, 771	民政	前	瀬母木	桂吉
	10, 174	民政	前	高木	益太郎
	9, 423	政友	新	伊藤	仁太郎
	8, 750	政友	前	安藤	正純
東京四区	78, 016				
	10, 149	民政	新	小俣	政一
	9, 949	民政	前	太田	信治郎
	4, 465	政友	前	磯部	尚
	4, 204	政友	新	国枝	捨治郎
東京五区	195, 182				
	47, 278	民政	前	高木	正年
	20, 995	民政	前	鈴木	富士弥
	17, 717	政友	新	牧野	賤男
	15, 009	民政	旧	斯波	貞吉
	13, 566	政友	新	佐藤	安之助
東京六区	221, 645				
	30, 577	民政	新	中村	継男
	25, 470	政友	前	前田	米蔵
	22, 420	政友	前	中島	守利
	20, 024	民政	新	鶴岡	和文
	17, 413	民政	新	佐藤	正
東京七区	73, 830				
	11, 819	政友	新	中村	亭
	11, 299	政友	新	坂本	一角
	10, 244	政友	新	津雲	国利
京都一区	139, 097				
	17, 507	民政	前	片岡	直温

	13, 158	民政	前	森田	茂
	9, 036	革新	前	田崎	信蔵
	8, 781	労農	新	水谷	長三郎
	8, 227	政友	新	鈴木	吉之助
京都二区	88, 297				
	21, 907	民政	前	川崎	安之助
	14, 972	政友	新	磯部	清吉
	14, 412	労農	新	山本	宣治
	72, 515				
京都三区					
	15, 181	政友	前	吉村	伊助
	12, 772	民政	前	村上	国吉
	10, 550	政友	新	水島	彦一郎
	93, 753				
大阪一区					
	11, 708	民政	新	一松	定吉
	7, 784	政友	新	平賀	周
	7, 301	民政	新	枅谷	寅吉
	74, 161				
大阪二区					
	21, 613	民政	旧	紫安	新九郎
	9, 748	実同	前	武藤	山治
	7, 054	民政	前	沼田	嘉一郎
	102, 746				
大阪三区					
	16, 211	民政	前	武内	作平
	14, 319	民政	前	広瀬	徳蔵
	12, 126	社民	新	西尾	末広
	8, 612	政友	前	吉津	度
大阪四区	172, 346				
	19, 667	社民	新	鈴木	文治
	14, 741	民政	新	石川	弘
	13, 356	民政	前	吉川	吉郎兵衛
	9, 919	政友	前	森田	政義
大阪五区	116, 650				
	15, 866	民政	前	田中	万逸
	15, 767	政友	前	岩崎	幸治郎
	12, 616	民政	新	勝田	永吉
	12, 332	民政	前	佐竹	庄七
大阪六区	83, 276				
	15, 212	民政	新	松田	竹千代

神奈川一区	13, 405	民政	前	井阪	豊光
	12, 427	政友	前	山口	義一
	113, 460				
神奈川二区	18, 538	民政	前	戸井	嘉作
	18, 173	民政	前	三宅	磐
	13, 650	政友	新	磯野	庸幸
	86, 243				
	14, 388	民政	前	小野	重行
神奈川三区	13, 768	民政	前	小泉	又次郎
	12, 355	政友	新	赤尾	藤吉郎
	12, 326	政友	新	川口	義久
	96, 173				
	16, 489	政友	新	鈴木	英雄
	12, 621	政友	新	胎中	楠右衛門
	14, 118	民政	旧	岡崎	久次郎
兵庫一区	12, 049	民政	前	平川	松太郎
	132, 999				
	31, 076	民政	旧	野田	文一郎
	14, 346	政友	前	砂田	重政
	12, 236	中立	新	藤原	米造
	7, 823	日労	新	河上	丈太郎
兵庫二区	7, 477	政友	新	中井	一夫
	129, 122				
	25, 097	民政	前	前田	房之助
	16, 481	政友	前	広岡	宇一郎
	15, 444	民政	前	小寺	謙吉
	10, 120	中立	旧	山邑	太三郎
兵庫三区	88, 955				
	21, 827	民政	新	三宅	利平
	12, 736	政友	新	青木	雷三郎
	10, 935	政友	新	山本	唯次
兵庫四区	97, 778				
	19, 542	民政	新	大野	敬吉
	15, 292	政友	前	原	惣兵衛
	12, 833	政友	前	土井	権大
	12, 150	革新	前	清瀬	一郎
兵庫五区	82, 033				

	23, 348	民政	前	斉藤	隆夫
	14, 679	民政	新	田	昌
	14, 127	政友	前	若宮	貞夫
長崎一区	136, 358				
	20, 218	政友	旧	西岡	竹次郎
	19, 545	政友	前	向井	倭雄
	10, 774	民政	前	則元	由庸
	10, 690	民政	前	志波	安一郎
	10, 421	民政	新	本田	英作
長崎二区	99, 834				
	15, 370	民政	前	牧山	耕蔵
	13, 787	民政	前	森	肇
	12, 310	政友	新	斉藤	厳
	9, 001	民政	前	本田	恒之
新潟一区	73, 643				
	18, 244	政友	前	山本	悌二郎
	16, 388	政友	旧	田辺	熊一
	14, 170	民政	新	安倍	邦太郎
新潟二区	96, 812				
	17, 314	政友	前	高橋	光威
	15, 694	民政	新	佐藤	興一
	13, 345	民政	前	石塚	三郎
	13, 089	政友	前	加藤	知正
新潟三区	130, 175				
	16, 753	民政	前	山田	又司
	15, 463	政友	旧	高橋	金治郎
	15, 413	革新	旧	大竹	貫一
	15, 338	中立	前	堤	清六
	12, 964	民政	新	飯塚	知信
新潟四区	87, 697				
	17, 730	民政	前	増田	義一
	17, 185	政友	旧	武田	徳三郎
	16, 717	民政	前	高島	順作
埼玉一区	115, 231				
	25, 382	政友	前	粕谷	義三
	23, 103	政友	前	秦	豊助
	22, 377	民政	新	田中	千代松

埼玉二区	8, 727	民政	新	定塚	門次郎
	97, 222				
	19, 173	民政	新	高橋	守平
	16, 573	中立	旧	長島	隆二
	16, 440	政友	新	大沢	寅次郎
埼玉三区	15, 587	政友	新	石塚	養平
	82, 873				
	18, 234	中立	新	遠藤	柳作
	16, 761	民政	新	野中	徹也
	16, 051	政友	新	出井	兵吉
群馬一区	127, 116				
	19, 461	政友	前	武藤	金吉
	17, 623	民政	新	武藤	七郎
	16, 307	政友	前	青木	精一
	14, 670	民政	前	飯塚	春太郎
	11, 497	民政	前	清水	留三郎
群馬二区	100, 816				
	16, 476	民政	前	木桧	三四郎
	13, 941	政友	旧	高津	仲次郎
	12, 570	民政	前	井本	常作
	12, 229	政友	前	木暮	武太夫
千葉一区	114, 753				
	19, 309	政友	前	鈴木	隆
	16, 128	民政	前	本多	貞次郎
	14, 316	政友	新	川島	正次郎
	13, 975	民政	前	志村	清右衛門
千葉二区	88, 651				
	18, 827	民政	旧	鵜沢	宇八
	18, 577	政友	前	吉植	庄一郎
	15, 992	政友	前	今井	健彦
千葉三区	105, 657				
	17, 704	政友	前	森	蠱昶
	15, 562	民政	前	土屋	清三郎
	14, 738	実同	前	千葉	三郎
	13, 423	政友	新	横堀	治三郎
茨城一区	112, 803				

茨城二区	25, 593	政友	前	内田	信也
	14, 352	民政	前	河野	正義
	13, 966	政友	前	来栖	七郎
	12, 721	民政	新	中崎	俊秀
	72, 782				
茨城三区	16, 902	民政	新	小峰	満男
	14, 935	政友	旧	山崎	猛
	12, 850	政友	前	石井	三郎
	115, 681				
	15, 867	政友	前	飯村	五郎
栃木一区	14, 628	民政	前	原	脩次郎
	14, 193	民政	新	海老沢	為次郎
	12, 020	政友	旧	宮古	啓三郎
	111, 525				
	16, 432	政友	前	森	恪
栃木二区	16, 072	民政	前	高田	耘平
	15, 623	民政	前	高橋	元四郎
	13, 463	政友	前	斉藤	藤四郎
	11, 897	民政	前	斉藤	太兵衛
	105, 574				
奈良	15, 490	政友	新	松村	光三
	15, 170	政友	新	藤沼	庄平
	8, 520	民政	前	神田	正雄
	8, 211	民政	新	栗原	彦三郎
	125, 181				
三重一区	16, 481	政友	新	森本	千吉
	14, 355	民政	前	八木	逸郎
	12, 243	政友	新	岩本	武助
	11, 700	民政	旧	福井	甚三
	11, 002	民政	新	松尾	四郎
三重二区	146, 471				
	29, 417	政友	前	加藤	久米四郎
	25, 782	民政	新	木村	秀興
	19, 995	民政	前	川崎	克
	16, 255	政友	前	井口	延次郎
	14, 379	政友	前	伊坂	秀五郎

	20, 959	民政	新	池田	敬八
	19, 070	中立	前	尾崎	行雄
	12, 259	政友	前	浜田	国松
	10, 718	中立	新	岸本	康通
愛知一区	158, 161				
	25, 020	民政	前	田中	善立
	16, 887	民政	前	小山	松寿
	15, 734	政友	前	加藤	鏑五郎
	10, 842	民政	新	鬼丸	義斉
	10, 691	中立	新	椎尾	弁匡
愛知二区	89, 108				
	15, 829	民政	新	久野	尊資
	15, 633	民政	前	西脇	晋
	14, 328	政友	前	丹下	茂十郎
愛知三区	78, 141				
	22, 420	民政	旧	滝	正雄
	17, 993	政友	前	三輪	市太郎
	16, 498	民政	前	加藤	鯛一
愛知四区	92, 580				
	19, 772	中立	新	山崎	延吉
	18, 406	民政	前	武富	濟
	15, 696	民政	前	岡本	実太郎
愛知五区	75, 301				
	14, 167	政友	前	大口	喜六
	12, 086	政友	新	鈴木	五六
	10, 251	民政	前	杉浦	武雄
静岡一区	146, 082				
	17, 613	政友	新	山口	忠五郎
	15, 246	政友	前	松浦	五兵衛
	14, 859	民政	新	小久江	美代吉
	14, 020	民政	新	海野	数馬
	13, 508	政友	前	松本	君平
静岡二区	100, 491				
	18, 592	民政	新	岸	衛
	15, 484	政友	前	庄司	良朗
	14, 599	政友	新	郡谷	照一郎
	13, 947	政友	前	小泉	策太郎

静岡三区	108, 132				
	18, 833	民政	旧	井上	剛一
	17, 835	政友	前	倉元	要一
	16, 132	政友	新	大橋	亦兵衛
山梨	14, 813	民政	前	永田	善三郎
	126, 278				
	24, 758	民政	旧	河西	豊太郎
	21, 743	政友	前	田辺	七六
滋賀	18, 067	中立	新	大崎	清作
	16, 629	政友	前	竹内	友治郎
	15, 166	政友	前	穴水	要七
	150, 763				
岐阜一区	16, 700	政友	前	清水	銀蔵
	15, 581	政友	旧	安原	仁兵衛
	15, 008	民政	前	堤	康次郎
	14, 885	民政	前	田中	養達
岐阜二区	13, 691	政友	新	富田	八郎
	77, 832				
	15, 969	民政	前	山田	道兄
	10, 749	政友	旧	匹田	鋭吉
岐阜三区	10, 212	実同	前	河崎	助太郎
	71, 558				
	14, 617	政友	前	井上	孝哉
	13, 174	民政	前	奥村	千蔵
長野一区	8, 156	政友	新	佐竹	直太郎
	96, 959				
	25, 144	政友	前	牧野	良三
	17, 189	政友	新	平井	信四郎
長野二区	15, 539	民政	新	渡辺	徳助
	87, 898				
	23, 863	民政	前	松本	忠雄
	22, 704	民政	旧	小坂	順造
長野三区	17, 000	政友	前	山本	慎平
	80, 241				
	19, 580	政友	前	篠原	和市
	18, 337	中立	新	小山	邦太郎
長野四区	18, 011	民政	旧	山辺	常重

長野三区	99, 806				
	17, 932	民政	前	樋口	秀雄
	17, 452	政友	前	小川	平吉
	16, 035	政友	新	伊原	五郎兵衛
	14, 526	民政	前	戸田	由美
長野四区	78, 958				
	16, 133	政友	新	上条	信
	15, 015	民政	前	降旗	元太郎
	13, 408	政友	前	植原	悦二郎
宮城一区	123, 445				
	19, 774	民政	前	藤沢	幾之輔
	17, 075	政友	旧	中島	鵬六
	14, 277	民政	前	内ヶ崎	作三郎
	13, 357	政友	前	菅原	伝
	12, 606	中立	新	守屋	栄夫
宮城二区	84, 403				
	13, 479	民政	新	矢本	平之助
	9, 893	民政	前	菅原	英伍
	9, 531	民政	新	小山	倉之助
福島一区	87, 068				
	18, 955	民政	前	栗山	博
	18, 875	政友	前	堀切	善兵衛
	18, 091	政友	新	菅野	善右衛門
福島二区	127, 311				
	22, 418	政友	前	八田	宗吉
	16, 621	民政	前	金沢	安之助
	15, 710	政友	旧	石射	文五郎
	15, 068	民政	前	菅村	太事
	14, 870	民政	新	林	平馬
福島三区	70, 802				
	15, 961	民政	前	比佐	昌平
	15, 339	政友	新	木村	清治
	13, 284	政友	旧	松本	孫右衛門
岩手一区	80, 327				
	25, 476	政友	新	田子	一民
	16, 627	政友	前	熊谷	厳
	10, 400	政友	旧	鈴木	厳

岩手二区	109, 837				
	23, 123	政友	前	志賀	和多利
	17, 004	政友	前	広瀬	為久
	16, 950	民政	前	柵瀬	軍之佐
	16, 268	政友	新	小野寺	章
青森一区	89, 763				
	22, 629	政友	新	中川原	貞機
	18, 744	政友	新	藤井	達也
	14, 317	民政	前	工藤	鉄男
青森二区	71, 531				
	19, 950	政友	旧	鳴海	文四郎
	14, 582	政友	前	工藤	十三雄
	10, 200	民政	新	長内	則昭
山形一区	112, 780				
	18, 708	政友	前	高橋	熊次郎
	17, 942	政友	前	西方	利馬
	17, 741	民政	旧	黒金	泰義
	16, 749	民政	旧	佐藤	啓
山形二区	97, 492				
	19, 200	政友	前	松岡	俊三
	16, 611	政友	前	熊谷	直太
	14, 925	民政	新	奥山	亀蔵
	14, 723	民政	新	清水	徳太郎
秋田一区	100, 137				
	18, 352	民政	前	町田	忠治
	17, 394	政友	新	池内	広正
	17, 221	民政	前	田中	隆三
	16, 702	政友	新	鈴木	安孝
秋田二区	93, 707				
	20, 107	民政	前	榊田	清兵衛
	19, 695	政友	前	井出	繁三郎
	17, 456	政友	前	池田	亀治
福井	131, 315				
	20, 351	政友	前	山本	条太郎
	18, 624	実同	旧	松井	文太郎
	18, 603	民政	旧	添田	敬一郎
	13, 091	政友	新	佐々木	久二

	12, 554	民政	前	熊谷	五右衛門
石川一区	82, 581				
	22, 809	政友	旧	中橋	徳五郎
	21, 163	民政	前	永井	柳太郎
	8, 002	政友	新	箸本	太吉
石川二区	76, 587				
	15, 749	民政	旧	桜井	兵五郎
	14, 675	民政	前	佐藤	実
	14, 143	政友	前	青山	憲三
富山一区	81, 746				
	18, 445	民政	前	野村	嘉六
	17, 067	民政	前	寺島	権蔵
	16, 763	政友	前	石坂	豊一
富山二区	78, 678				
	21, 208	民政	新	山田	毅一
	15, 197	民政	新	松村	謙三
	14, 090	政友	前	上埜	安太郎
鳥取	103, 018				
	19, 625	政友	新	豊田	収
	18, 052	政友	新	矢野	晋也
	16, 435	民政	前	三好	栄次郎
	15, 843	民政	前	谷口	源十郎
島根一区	94, 448				
	26, 172	民政	前	木村	小左衛門
	20, 537	民政	前	桜内	幸雄
	15, 121	民政	前	原	夫次郎
島根二区	80, 358				
	22, 689	民政	前	俵	孫一
	19, 589	政友	旧	島田	俊雄
	11, 135	中立	新	沖島	鎌三
岡山一区	141, 377				
	24, 648	中立	新	鶴見	祐輔
	14, 499	政友	新	玉野	知義
	14, 118	政友	前	岡田	忠彦
	14, 109	政友	新	横山	泰造
	11, 970	政友	新	久山	知之
岡山二区	142, 612				

	26, 528	民政	前	小川 郷太郎
	23, 718	民政	前	西村 丹治郎
	14, 433	政友	前	星島 二郎
	14, 010	政友	新	小谷 節夫
	13, 680	政友	前	犬養 毅
広島一区	112, 277			
	13, 808	民政	前	藤田 若水
	12, 784	政友	新	岸田 正記
	12, 704	政友	前	名川 侃市
	12, 070	民政	新	森保 祐昌
広島二区	111, 548			
	16, 086	政友	前	望月 圭介
	15, 888	民政	前	山道 襄一
	13, 310	民政	旧	宮原 幸三郎
	11, 561	政友	新	肥田 琢司
広島三区	135, 874			
	12, 746	政友	前	嶋居 哲
	12, 230	政友	新	宮沢 裕
	12, 133	政友	新	小山 寛蔵
	11, 147	民政	新	作田 高太郎
	10, 618	民政	前	横山 金太郎
山口一区	114, 020			
	18, 118	政友	新	久原 房之助
	17, 003	政友	新	庄 晋太郎
	14, 410	政友	新	榎谷 音三
	10, 522	民政	旧	藤井 啓一
山口二区	133, 658			
	16, 761	民政	新	沢本 与一
	15, 227	政友	新	葛原 猪平
	14, 114	政友	前	児玉 右二
	13, 948	政友	前	吉木 陽
	13, 930	政友	新	西村 茂生
和歌山一区	92, 388			
	18, 397	政友	新	木本 主一郎
	16, 953	民政	新	山崎 伝之助
	16, 907	民政	前	中村 啓次郎
和歌山二区	82, 609			

徳島一区	19, 191	民政	旧	小山	谷蔵
	11, 058	政友	前	中村	巍
	10, 437	中立	前	田淵	豊吉
	76, 956				
徳島二区	12, 427	民政	前	原田	佐之治
	12, 131	政友	前	生田	和平
	11, 714	政友	旧	浅石	恵八
	77, 968				
香川一区	18, 768	政友	前	秋田	清
	15, 859	民政	新	真鍋	勝
	13, 445	民政	前	高島	兵吉
	73, 900				
香川二区	19, 717	政友	新	宮脇	長吉
	17, 537	民政	前	小西	和
	12, 776	民政	前	戸沢	民十郎
	79, 037				
愛媛一区	20, 337	政友	前	三土	忠造
	16, 364	政友	前	山下	谷次
	16, 284	民政	前	松田	三徳
	83, 002				
愛媛二区	15, 901	政友	新	須之内	品吉
	13, 853	政友	前	高山	長幸
	12, 495	政友	旧	岩崎	一高
	78, 760				
愛媛三区	14, 393	政友	前	河上	哲太
	12, 429	政友	新	竹内	鳳吉
	12, 357	民政	前	小野	寅吉
	73, 945				
高知一区	16, 121	政友	新	二神	駿吉
	14, 736	民政	前	村松	恒一郎
	14, 218	政友	前	佐々木	長治
	78, 154				
高知二区	16, 722	政友	前	中谷	貞頼
	15, 758	民政	前	浜口	雄幸
	15, 342	民政	前	富田	幸次郎
	79, 472				
	14, 146	民政	前	下元	鹿之助

福岡一区	14, 088	民政	新	大西	正幹
	12, 051	政友	新	坂本	志魯雄
	110, 127				
福岡二区	18, 761	民政	前	中野	正剛
	16, 639	政友	前	山口	恒太郎
	13, 548	政友	新	宮川	一貫
	12, 918	政友	新	多田	勇雄
	126, 107				
福岡三区	23, 015	民憲	新	浅原	健三
	13, 962	社民	新	亀井	貫一郎
	12, 640	政友	新	久恒	貞雄
	12, 088	民政	前	大里	広次郎
	10, 627	民政	前	吉田	磯吉
	131, 328				
福岡四区	16, 672	政友	前	山崎	達之輔
	14, 616	政友	前	野田	俊作
	11, 986	政友	前	有馬	秀雄
	11, 974	民政	旧	臼田	久内
	9, 819	中立	前	大内	暢三
	97, 856				
大分一区	16, 096	政友	前	内野	辰次郎
	15, 977	民政	新	勝	正憲
	14, 402	民政	新	末松	偕一郎
	13, 788	政友	前	坂井	大輔
	123, 650				
大分二区	22, 611	民政	旧	一宮	房治郎
	20, 511	民政	前	松田	源治
	20, 132	政友	前	三浦	数平
	19, 233	政友	前	金光	庸夫
	76, 985				
佐賀一区	17, 857	政友	新	成清	信愛
	17, 536	政友	前	元田	肇
	15, 144	民政	前	重松	重治
	57, 520				
	12, 969	民政	前	福田	五郎
	10, 188	政友	新	石井	次郎
	9, 538	政友	新	田中	亮一

佐賀二区	76, 570				
	19, 790	民政	新	森	峰一
	15, 981	民政	前	西	英太郎
	14, 427	政友	前	川原	茂輔
熊本一区	130, 957				
	19, 855	民政	前	小橋	一太
	19, 658	民政	旧	平山	岩彦
	18, 839	政友	旧	松野	鶴平
	18, 597	民政	前	大麻	唯男
	15, 216	政友	前	原田	十衛
熊本二区	142, 897				
	19, 386	民政	新	深水	清
	18, 716	政友	新	中野	猛雄
	17, 141	政友	旧	上塚	司
	16, 691	民政	前	安達	謙蔵
	15, 633	政友	前	中山	貞雄
宮崎	147, 042				
	16, 974	民政	新	二見	甚郷
	14, 002	民政	新	鈴木	憲太郎
	13, 431	民政	新	三浦	虎雄
	11, 250	民政	新	水久保	甚作
	10, 614	政友	新	矢野	力治
鹿児島一区	117, 487				
	18, 478	民政	前	床次	竹二郎
	8, 655	民政	前	岩切	重雄
	8, 075	民政	前	蔵園	三四郎
	7, 708	民政	新	原	耕
	7, 429	中立	新	岩川	与助
鹿児島二区	107, 585				
	14, 349	民政	前	東郷	実
	12, 993	民政	前	寺田	市正
	7, 478	民政	新	赤塚	正助
	7, 067	民政	新	崎山	武夫
鹿児島三区	71, 632				
	9, 560	政友	新	英	義彦
	8, 600	民政	前	津崎	尚武
	8, 422	政友	新	永田	良吉

沖縄	126, 678				
	19, 750	民政	新	漢那	憲和
	14, 732	民政	新	伊礼	肇
	12, 787	政友	新	亀割	安蔵
	8, 337	政友	新	竹下	文隆
	6, 583	政友	旧	花城	永渡
北海道一区	106, 758				
	17, 501	民政	旧	中西	六三郎
	12, 395	民政	前	山本	厚三
	12, 393	政友	新	森	正則
	9, 898	政友	前	岡田	伊太郎
北海道二区	82, 344				
	18, 520	政友	前	東	武
	12, 007	政友	新	林	路一
	11, 857	民政	前	坂東	幸太郎
	9, 201	民政	前	浅川	浩
北海道三区	73, 940				
	15, 870	民政	新	平出	喜三郎
	15, 212	政友	前	黒住	成章
	12, 832	政友	前	佐々木	平次郎
北海道四区	99, 769				
	12, 010	政友	前	板谷	順助
	9, 622	政友	前	松実	喜代太
	8, 252	民政	新	岡本	幹輔
	7, 958	中立	新	檀野	礼助
	7, 387	民政	前	神部	為蔵
北海道五区	93, 508				
	14, 116	政友	旧	木下	成太郎
	13, 496	政友	新	三井	徳宝
	9, 709	民政	前	小池	仁郎
	8, 600	民政	新	前田	政八

(衆議院事務局編『第一六回衆議院議員総選挙一覧』による)

なお選挙直後の2月28日、兵庫二区から無所属で当選した山邑太三郎が死去したため、次点の政友会・陰山貞吉が繰上げ補充で当選者となっている。しかし3月15日に死去した政友会・吉村伊助の場合には、当選承諾期間経過後であったため、繰上げ補充は行われず、そのまま欠員とされた。

選挙干渉問題

この総選挙では、選挙運動中から、政府の選挙干渉に激しい非難があげられた点が特徴的であった。前述したように、政府はすでに1月10日地方官の大移動を発令していたが、さらに解散直後の1月24日には地方長官会議を召集して選挙取締り方針を指示している。当時の新聞は、鈴木内相がこの会議のため上京した知事等と個別に会談して、「(1)民政党を目標として候補者の選定をなさしむるようにすること、(2)民政党には有力なる候補者を立てしめざるようにすること、(3)与党以外の候補者に対しては選挙法の許す範囲内において十分なる取締りをすること」(大阪朝日、1・25)など露骨な与党支持工作を要求したと伝えていた。大正14年改正選挙法が選挙運動についての細かな規制を設けたことは、わずかな違反を理由とする運動員の検束が可能であり、選挙干渉的取締りの余地を与えるものであった。

例えば、この総選挙で最も激しい弾圧を加えられたのは、香川二区から立候補した労農党委員長大山郁夫の場合であり、運動員の総検束にはじまり、全県下にわたって労農党支部の幹部が検束されたが、推薦状に著名を求めるため戸別訪問したというのが、その最初の理由とされていた。無産政党の場合に対しては、こうしたやり方のほか、治安警察法にもとづく臨検警察官の命令によって、演説会を中止・解散させるという運動弾圧の常套手役が選挙の場合にも多用された。大阪朝日は2月16日、「官憲の圧迫」と題する社説をかかげて、こうしたやり方に抗議したが、そのなかで具体例をあげて次のように述べている。

「各地の演説会場においても、またポスター等の掲示につきても警官の取締りは往々にして中正を欠くものありと聞く。無産党の演説会がしばしば解散や中止を命ぜられる場合滑稽至極の無理解や無知無識の場合もありと伝ふ。現に東朝社で各政党代表の演説会を催し折の実例に見るも、大山労農党首が序論だけで本論に入らぬ内に中止せられ、また某所ではムッソリニとレーニンを間違へて警官が中止を命じ、また或る弁士が『予は反共産党なり……』といひかけた時に『半分の共産主義者』なりとして『注意』したという例もあるが、これは決して一場の笑話としてすますべきものではない」

政府与党が最大の敵としたのはもちろん民政党であり、警察は選挙戦のはじめから民政党側のパンフレットやビラを次々に押収していった。例えば1月28日には「三〇〇万円問題の機密費事件で疑雲いまだにとけぬ田中首

相と山梨総督」と題する8頁のハンフレット20万部が押収されるに至っている。こうした政府側の動向に対し

て、民政党では貴族院勅選議員を中心とした選挙革正会をつくり、選挙干渉を防止する監視員を各地に派遣したが、内務省側は地方官吏にこれら民政党監視員との面会を避けるよう通牒すると共に、これら監視員を監視させるために警保局員を派遣するなど、選挙戦は泥試合の様相を呈していった。

さらにこの間、民政党側は二つの怪文書を暴露して政府の選挙干渉に抗議するという事件がおこっている（この二つの文書は、貴族院議事速記録第三号—昭和3年4月27日—51～55頁に掲載されている）。第一のものは「（秘）選挙運動方法」と題され政友会候補者に配られたものであるが、その内容から内務省の資料にもとづいて作成されたものと考えられ、とくにそのなかで「戸別訪問ノ新手段」など脱法的運動方法を指示している点が問題とされた。第二のものは「一五日以後ニ於テ特ニ奮闘スベキ候補者調」と題する、地方からの報告綴りであり、政友会又は政友会に同調的な候補者（政賛＝政友会賛成）の状況及び資金接助など最終段階に必要な具体的な支援方法を報告しているものであるが、これは内務省の指令にもとづき県庁側が調査報告したものだとして追求されたのであった。もしそうだとすれば、地方行政組織が与党の選挙運動に利用されている証拠となるものであった。

こうした選挙干渉への非難にもかかわらず、鈴木内相はさらに投票日前日の2月19日、民政党の政綱は「我団体と相容れない」とする次のような声明書を発表し、大衆の天皇制的意識を政友会に動員しようと試みた。これは明らかに、投票日の朝刊に掲載されることをねらったものであった。

解散前における政友会の議員数190、民政党219といふが如きはたれが考へてもまことに不自然な状態であり、過去数年前に於ける政情の遺物であり、即ち現在に於ける国民総意の正しき反映ではなかったのである。然るにも拘らず民政党は唯幻影的且つ形式的の数を頼んで反対せんが為めの反対をなしたるがために遂に解散の大権発動を見てここに本日の普通選挙が行はれるに至った訳である。恐らくは本日の投票においてはこの過去の遺物たる現象は消滅して、現在に於ける地方の政情はそのまま自然に発露せられ、即ち本来多かるべきものはそのまま多く、少なきものは自ら少なからしむるという自然の大法則に律せられて落着くべきところに落着き、政友会は多数を得る事が当然であり、政局はここに安定して国家はいよいよ隆昌に赴くであらう。然り最近の選挙界の情勢を見るも政戦はこの自然的の方向に進みつつあると確信する。けれども世間には時として根拠なき中傷や、故なき陰謀、奸策に迷はされ、あるひは不法の手段に禍せられたり、又は為にする悪宣伝等に思はざる影響なしとしないから、この際国民一般は極めて冷静に迷ふ所なく正しき信念をもって自己の信頼する人格識見あって国家の大事を託し得る人

に向って、自由公正に投票せねばならぬ、これを取締るべき立場にある政府はあくまでも至公至平であったのは今更言ふまでもない。

我憲法上内閣の組織は畏くも大権発動に職由して政党员数の多寡をもって直に内閣が生れると言ふが如き他外国の例と照比するを許されない。政友会は創立以来皇室中心主義を奉体し現時の政綱として産業立国外四大政綱を掲げ積極政策を採って居るに比し民政党はその政綱において「議會中心政治を徹底せしめんことを要望す」と高唱して居るが、これは極めて穩かならざる思想であり、神聖なる我帝国憲法の大精神を蹂躪するものといはねばならぬ、我帝国の政は一に天皇陛下が総覧あらせられ即皇室中心政治であるは炳乎として瞭である。議會中心主義などといふ思想は民主主義の潮流にさおさした英米流のものであって、我国体とは相容れない。畢竟かくの如き思想は主権は一に天皇にありとの大義を紊乱し、帝国憲法の大精神を蹂躪するものであって断じて許すべからざるものである。国民は事を冷静に批評し、帝国憲法の働きを完たからしめ、その大精神を体得することに忠なるを要する。

府県會議員選挙の際に於ける約2割6分5厘という棄権率に顧み政府はその後国民一般に対し棄権は立憲国民としての一大罪惡であることを警告し、今回の選挙には是非棄権しない様にといふ趣旨をあまねく徹底せしめたいのである、投票日の本日特にその注意を喚起する。殊に雪国地方においては投票場へ赴かれるの苦勞は察するに余りがあるが、これも国家に対する重大なる義務を果す所以であるといふ点に一度想を致せられるならば祖先より伝はる忠君愛国の血が身体に満々たる我が大和民族は、自ら發奮する所があるであらう」

問題にされた民政党の政綱は、「国民の総意を帝国議會に反映し、天皇統治の下、議會中心政治を徹底せしむべし」というものであり、内相声明で攻撃されたのは最後の部分であった。しかし普選にまで拡大された選挙権が最初に行使されるというこの総選挙にあたって、議會中心政治を否認することは、政府自らこの最初の普選の意義を低めようとするにほかならず、各方面から強い批判が加えられた。新聞には、民政党が国体に反するのなら何故、治安警察法で解放させないのかといった反発がみられたし、貴族院からは、皇室を政争の具に供するものとする非難があらわれた。ともかくこの声明が、鈴木内相不信任の空気を決定的に高めたことは疑いないところであった。

多数派工作と小会派

総選挙後の特別議會は、3月1日の召集詔書によって、4月20日召集、会期14日間と定められた。しかし総選挙

結果にみられるように、政友・民政両党の差が、開票時で217対216の1名差にすぎなかったことは、両党の多数派工作を激化させ、また小会派にキャスティングボートを与える結果となった。まず与党側は直接的な方法として相手側の切り崩し工作や無所属議員に対する入党勧誘などを試み、その結果4月20日の第五五議会召集日には、政友221名対民政216名と5名差までひろげたが、この程度の差では議会の動向をきめることはできず、従って小会派や無所属議員の動き方によっては、内閣不信任案が可決されることもあり得るという情勢がつづいていった。

そこで政府・与党側はさらに、実業同志会を与党化することを企て、逄相望月圭介・大蔵政務次官大口喜六と武藤山治の間に政策についての了解をつくりあげた。また後藤新平を通じて無所属議員への働きかけも行われたが、他方では実業同志会の松井文太郎代議士（福井選出）が政友会との妥協に反対して脱党し、民政党に走るなどの動きもあり、依然として政府側に有利な局面をつくり出すことができなかった。

これに対して民政党は内閣不信任案を提出して一気に田中内閣を打倒しようと意気込んでいたが、無産政党・革新党の賛成は得られるにしても、無所属議員の動向はなおつかみかねていた。

代議士を当選させた無産四党は3月9日、議会对策共同委員会を発足させ（院内では「無産党議員団」と名づけた）、同委員会は民政党の不信任案に同調する態度を明らかにすると共に、4月13日には、野党協議会の開催を提唱した。

この間、4月7日には、鶴見祐輔ら無所属議員5名が「吾人は既成政党及び無産党の外に立ち広く同志を天下に求め新政治運動を起こさんことを期す」との声明を発し、新しい政治団体結成の意向を明らかにしていた。そして4月17日にいたり、「明政会」と称する院内団体（召集日現在、七議員所属）を結成する。この明政会グループは、選挙粛正に重きを置き、鈴木内相の責任追求を第一義の問題として、革新党や無所属にとどまっている尾崎行雄らとも連絡をとっていた。彼等は不信任案には賛成しないであろうとみられていたが、しかし民政党側にも彼等の賛成なしに不信任案を成立させる見通しはなかった。そこで民政党も野党協議会に参加し、当面は内閣不信任案に同調して田中内閣打倒の気運を高め、最後に内閣不信任案を提出するという方針を固めた。第五五議会が召集された時には、内閣不信任案の成立は避け難い情勢となっていた。

三・一五事件と労働農民党の結社禁止

こうした与野党間の策動が激化している最中の4月10日、共産党大検挙の記事が解禁となり、同時に鈴木内相の名によって、労働農民党・日本労働組合評議会・全日本無産青年同盟の三団体に治安警察法にもとづく結社禁止命令が発せられた。共産党員の一斉検挙は「三・一五事件」と呼ばれているように、治安維持法違反の容疑によってすでに3月15日に行われていたが、この日まで記事にすることを禁じられていたものであった。

すでに前述したように、前年秋以来「二七年テーゼ」にもとづいて大衆闘争強化の方向に転換しつつあった日本共産党は、この最初の普選を積極的にたたかおうとした。2月1日には非合法機関紙「赤旗」を創刊、労農政府の樹立をスローガンとした選挙闘争を指示すると共に、労農党から、徳田球一（福岡四区）・杉浦啓一（静岡一区）・山本懸蔵（北海道一区）・南喜一（東京六区）らを立候補させ、公然たる活動にのり出した。また選挙運動にあたっては、日本共産党の署名入りのビラをまいて大衆に共産党の存在とスローガンを知らせようとする活動も行われた。これに対して、すでに五色温泉での共産党再建以来の動向を察知していた治安当局は、こうした公然たる選挙活動に直面して全国的な一斉検挙を準備したのであった。3月15日払暁から行われた検挙は、一道三府二七県におよび、渡辺雅之輔・市川正一・鍋山貞親らの幹部はのがれたが、検挙者は千数百名にのぼった。そしてこれらの幹部による再建活動をおって、翌年再び四・一六の大量検挙が行われることになる。

労農党など三団体に対する解散命令には、治安警察法の「安寧秩序ヲ保持スルタメ必要ナ場合」が適用されたが、共産党勢力が滲透しているこれら三団体を解散させて、共産党の活動を封ずることをねらった措置であることは明らかであった。労農党幹部は11日速党再建の方針をきめ、翌4月12日新党組織準備会を開こうとしたが、議事に入る前に解散させられてしまった。内務右側の言い分は、真に共産系分子を一掃し、綱領政策などを一新しなくてはならないというものであった。

ところで、田中内閣側は共政党問題を政局乗切りに利用したいと考えていたものと思われる。政友会からは、結社禁止された労農党の水谷・山本両代議士を除名せよとか、本人が引責自決するのが当然だとかいった声があがっていたが、政府側がにわかに治安維持法改正案をこの議会に提出したのは、この問題によって議会の関心を分散させることをねらったものとみられた。改正案は、これまで私有財産制度の否認と同列に規定されていた国体の変革を切り離し、最高刑を死刑にまで引上げようとする点が中心であった。改正案はこの速記録に掲載されているが、当時の現行法文はないので、参考のため関係条文を収録しておくことにする。

第一条 国体ヲ变革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ一〇年以下ノ懲役又ハ禁則ニ処ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二条 前条第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ実行ニ関シ協議ヲ為シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁則ニ処ス

第三条 第一条第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ実行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁則ニ処ス

第四条 第一条第一項ノ目的ヲ以テ騒擾、暴行其他生命、身体又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ一〇年以下ノ懲役又ハ禁則ニ処ス

第五条 第一条第一項及前三条ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供与シ又ハ其ノ申込若クハ約束ヲ為シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁則ニ処ス、情ヲ知リテ供与ヲ受ケ又ハ其ノ要求若クハ約束ヲ為シタル者亦同シ

第五五特別議会の召集

総選挙以来一箇月にわたる政民両党の策動も決定的な効果がなかったことは、召集日の議長・副議長選挙で明らかになった。議長選挙では、政友会・元田肇二228票対民政党・藤沢俊之輔220票の8票差で決戦投票となったが、この票差を逆転できず元田230票対藤沢228票で元田が勝ち議長に任命された。民政党内には、前議長の森田茂を出せば勝てたかもしれないとの声があったが、副議長については、民政党は確実に小会派の票を確保するため、革新党の清瀬一郎を支持する態度に出た。その結果副議長選挙は、革新党・清瀬一郎227票対政友会・広岡宇一郎225票で決戦投票となったが、清瀬が233票対226票で広岡をくだして副議長に任命された。

なお大正14年・第五〇議会で議長・副議長は党籍を離脱するとの決議案が成立し、以後これが慣行となっていた。この議会でもこの慣行に従って議長・元田肇は政友会、副議長・清瀬一郎は革新党の党籍をはなれ、無所属となった。

またこの議会における国务大臣・政府委員・全院委員長・常任委員長などは次の通りである。

国務大臣	内閣総理大臣	田中 義一
	外務大臣（兼任）	田中 義一
	内務大臣	鈴木 喜三郎
	同(5・4兼任)	田中 義一
	大蔵大臣	三土 忠造
	陸軍大臣	白川 義則
	海軍大臣	岡田 啓介
	文部大臣	水野 錬太郎
	農林大臣	山本 悌二郎
	商工大臣	中橋 徳五郎
	逓信大臣	望月 圭介
	鉄道大臣	小川 平吉
	司法大臣	原 嘉道

政府委員 (4・21発令)	内閣書記官長	鳩山 一郎
	同 拓殖局長	成毛 基雄
	法制局長官	前田 米蔵
	同 参事官	金森 徳次郎
	朝鮮政務総監	池上 四郎
	同 財務局長	草間 秀雄
	台湾総務長官	後藤 文夫
	同 財務局長	富田 松彦
	関東庁内務局長	神田 純一
	同 財務局長	西山 左内
	樺太庁長官	喜多 孝治
	南洋庁長官	横田 郷助
	外務政務次官	森 恪
	同 参与官	植原 悦二郎
	同 亜細亜局長	有田 八郎
	同 欧米局長	堀田 正昭
	同 通商局長	武富 敏彦
	同 条約局長	松永 直吉
	同 書記官	坪上 貞二
	内務政務次官	武藤 金吉
	同 参与官	加藤 久米次郎
	同 地方局長	潮 恵之輔
	同 警保局長	山岡 万之助

同 書記官	唐沢 俊樹
復興局長官	堀切 善次郎
社会局長官	長岡 隆一郎
大蔵政務次官	大口 喜六
大蔵参与官	山口 義一
同 主計局長	河田 烈
同 主税局長	藤井 真信
同 理財局長	富田 勇太郎
同 銀行局長	保倉 熊三郎
同 書記官	佐野 正次
同 同	川越 文雄
陸軍政務次官	竹内 友治郎
同 参与官	八田 宗吉
同 主計総監	三井 清一郎
陸軍中将	阿部 信行
同 一等主計正	小野寺 長治郎
海軍政務次官	内田 信也
同 参与官	松本 君平
同 主計中将	加藤 亮一
同 中将	左近司 政三
同 主計大佐	池辺 安雄
司法政務次官	浜田 国松
同 参与官	黒住 成章
同 書記官	近藤 三郎
文部政務次官	山崎 達之輔
同 参与官	安藤 正純
同 書記官	木村 正義
農林政務次官	東 武
同 参与官	砂田 重政
同 書記官	井野 碩哉
商工政務次官	吉植 庄一郎
同 参与官	牧野 良三
同 書記官	木戸 幸一
逓信政務次官	秋田 清
同 参与官	向井 倭雄
同 経理局長	最所 文二
鉄道政務次官	上埜 安太郎

同	参与官	志賀 和多利
同	監督局長	福富 正男
同	建設局長	中村 謙一
同	工務局長	加賀山 学
同	経理局長	矢田部 良造

政府委員
(会期中追加発令)

司法省刑事局長	泉二 新熊
北海道庁長官	沢田 牛麿
大蔵省営善管財局理事	太田 嘉太郎

全院委員長

西村 丹治郎（民政・岡山）

常任委員長

予算委員長	川原 茂輔（政友・佐賀）
決算委員長	匹田 鋭吉（政友・岐阜）
請願委員長	岡田 伊太郎（政友・北海道）
懲罰委員長	宮古 啓三郎（政友・茨城）

党派別所属議員氏名

召集日各党派所属議員数（昭和3年4月20日）

立憲政友会	221名
立憲民政党	216名
無産党議員団	8名
明政会	7名
実業同志会	3名
革新等	3名
無所属	7名
欠員	1名
計	466名

立憲政友会（221名）

東京	立川 太郎
同	鳩山 一郎
同	矢野 鉉吉
同	伊藤 仁太郎
同	安藤 正純
同	磯部 尚
同	国枝 捨次郎

同	牧野 賤男
同	佐藤 安之助
同	前田 米蔵
同	中島 守利
同	中村 亨
同	坂本 一角
同	津雲 国利
京都	鈴木 吉之助
同	磯部 清吉
同	水島 彦一郎
大阪	平賀 周
同	吉津 度
同	森田 政義
同	岩崎 幸治郎
同	山口 義一
神奈川	磯野 庸幸
同	赤尾 藤吉郎
同	川口 義久
同	鈴木 英雄
同	胎中 楠右衛門
兵庫	砂田 重政
同	中井 一夫
同	広岡 宇一郎
同	陰山 貞吉
同	青木 雷三郎
同	山本 唯次
同	原 惣兵衛
同	土井 権大
同	若宮 貞夫
長崎	西岡 竹次郎
同	向井 倭雄
同	斉藤 巖
新潟	山本 悌二郎
同	田辺 熊一
同	高橋 光威
同	加藤 知正
同	高橋 金治郎

同	武田 徳三郎
埼玉	粕谷 義三
同	秦 豊助
同	大沢 寅次郎
同	石坂 養平
同	遠藤 柳作
同	出井 兵吉
群馬	武藤 金吉
同	青木 精一
同	高津 仲次郎
同	木暮 武太夫
千葉	鈴木 隆
同	川島 正次郎
同	吉植 庄一郎
同	今井 健彦
同	森 轟昶
同	横堀 治三郎
茨城	内田 信也
同	来栖 七郎
同	山崎 猛
同	石井 三郎
同	飯村 五郎
同	宮古 啓三郎
栃木	森 恪
同	斉藤 藤四郎
同	松村 光三
同	藤沼 庄平
奈良	森本 千吉
同	岩本 武助
三重	加藤 久米四郎
同	井口 延次郎
同	伊坂 秀五郎
同	浜田 国松
愛知	加藤 鏢五郎
同	丹下 茂十郎
同	三輪 市太郎
同	大口 喜六

同	鈴木 五六
静岡	山口 忠五郎
同	松浦 五兵衛
同	松本 君平
同	庄司 良朗
同	郡谷 照一郎
同	小泉 策太郎
同	倉元 要一
同	大橋 亦兵衛
山梨	田辺 七六
同	大崎 清作
同	竹内 友治郎
同	穴水 要七
滋賀	清水 銀蔵
同	安原 仁兵衛
同	富田 八郎
岐阜	匹田 鋭吉
同	井上 孝哉
同	佐竹 直太郎
同	牧野 良三
同	平井 信四郎
長野	山本 慎平
同	篠原 和市
同	小川 平吉
同	伊原 五郎兵衛
同	上条 信
同	植原 悦二郎
宮城	中島 鵬六
同	菅原 伝
福島	堀切 善兵衛
同	菅野 善右衛門
同	八田 宗吉
同	石射 文五郎
同	木村 清治
同	松本 孫右衛門
岩手	田子 一民
同	熊谷 巖

同	鈴木 巖
同	志賀 和多利
同	広瀬 為久
同	小野寺 章
青森	中川原 貞機
同	藤井 達也
同	鳴海 文四郎
同	工藤 一三雄
山形	高橋 熊次郎
同	西方 利馬
同	松岡 俊三
同	熊谷 直太
秋田	池内 広正
同	鈴木 安孝
同	出井 繁三郎
同	池田 亀治
福井	山本 条太郎
同	佐々木 久二
石川	中橋 徳五郎
同	箸本 太吉
同	佐藤 実
同	青山 憲三
富山	石坂 豊一
同	上埜 安太郎
鳥取	豊田 収
同	矢野 晋也
島根	島田 俊雄
同	沖島 鎌三
岡山	玉野 知義
同	岡田 忠彦
同	横山 泰造
同	久山 知之
同	星島 二郎
同	小谷 節夫
同	犬養 毅
広島	岸田 正記
同	名川 侃市

同	望月 圭介
同	肥田 琢司
同	嶋居 哲
同	宮沢 裕
同	小山 寛蔵
山口	久原 房之助
同	庄 晋太郎
同	枅谷 音三
同	葛原 猪平
同	児玉 右二
同	吉木 陽
同	西村 茂生
和歌山	木本 主一郎
同	中村 巍
徳島	生田 和平
同	浅石 恵八
同	秋田 清
香川	宮脇 長吉
同	三土 忠造
同	山下 谷次
愛媛	須之内 品吉
同	高山 長幸
同	岩崎 一高
同	河上 哲太
同	竹内 鳳吉
同	二神 駿吉
同	佐々木 長治
高知	中谷 貞頼
同	坂本 志魯雄
福岡	山口 恒太郎
同	宮川 一貫
同	多田 勇雄
同	久恒 貞雄
同	山崎 達之輔
同	野田 俊作
同	有馬 秀雄
同	内野 辰次郎

同	坂井 大輔
大分	三浦 数平
同	金光 庸夫
同	成清 信愛
同	元田 肇
佐賀	石井 次郎
同	田中 亮一
同	川原 茂輔
熊本	松野 鶴平
同	原田 十衛
同	上塚 司
同	中野 猛雄
同	中山 貞雄
宮崎	矢野 力治
鹿児島	岩川 与助
同	英 義彦
同	永田 良吉
沖縄	亀割 安蔵
同	竹下 文隆
北海道	森 正則
同	岡田 伊太郎
同	東 武
同	林 路一
同	黒住 成章
同	佐々木 平次郎
同	板谷 順助
同	松実 喜代太
同	木下 成太郎
同	三井 徳宝

立憲民政党（216名）

東京	横山 勝太郎
同	瀬川 光行
同	三木 武吉
同	桜内 辰郎
同	中島 弥団次
同	小滝 辰雄

同	頼母木 桂吉
同	高木 益太郎
同	小俣 政一
同	太田 信治郎
同	高木 正年
同	鈴木 富士弥
同	斯波 貞吉
同	中村 継男
同	鶴岡 和文
同	佐藤 正
京都	片岡 直温
同	森田 茂
同	川崎 安之助
同	村上 国吉
大阪	一松 定吉
同	枅谷 寅吉
同	紫安 新九郎
同	沼田 嘉一郎
同	武内 作平
同	広瀬 徳蔵
同	石川 弘
同	吉川 吉郎兵衛
同	田中 万逸
同	勝田 永吉
同	佐竹 庄七
同	松田 竹千代
同	井阪 豊光
神奈川	戸井 嘉作
同	三宅 磐
同	小野 重行
同	小泉 又次郎
同	岡崎 久次郎
同	平川 松太郎
兵庫	野田 文一郎
同	前田 房之助
同	小寺 謙吉
同	三宅 利平

同	大野 敬吉
同	斉藤 隆夫
同	田 昌
長崎	則元 由庸
同	志波 安一郎
同	本田 英作
同	牧山 耕蔵
同	森 肇
同	本田 恒之
新潟	安倍 邦太郎
同	佐藤 与一
同	石塚 三郎
同	山田 又司
同	飯塚 知信
同	増田 義一
同	高鳥 順作
埼玉	田中 千代松
同	定塚 門次郎
同	高橋 守平
同	野中 徹也
群馬	武藤 七郎
同	飯塚 春太郎
同	清水 留三郎
同	木桧 三四郎
同	井本 常作
千葉	本多 貞次郎
同	志村 清右衛門
同	鷺沢 宇八
同	土屋 清三郎
茨城	河野 正義
同	中崎 俊秀
同	小峰 満男
同	原 脩次郎
同	海老沢 為次郎
栃木	高田 耕平
同	高橋 元四郎
同	斉藤 太兵衛

同	神田 正雄
同	栗原 彦三郎
奈良	八木 逸郎
同	松尾 四郎
三重	木村 秀興
同	川崎 克
同	池田 敬八
愛知	田中 善立
同	小山 松寿
同	鬼丸 義斉
同	西脇 普
同	久野 尊資
同	滝 正雄
同	加藤 鯛一
同	武富 済
同	岡本 実太郎
同	杉浦 武雄
静岡	小久江 美代吉
同	海野 数馬
同	岸 衛
同	井上 剛一
同	永田 善三郎
山梨	河西 豊太郎
滋賀	堤 康次郎
同	田中 養達
岐阜	山田 道兄
同	奥村 千蔵
同	渡辺 徳助
長野	松本 忠雄
同	小坂 順造
同	山辺 常重
同	樋口 秀雄
同	戸田 由美
同	降旗 元太郎
宮城	藤沢 幾之輔
同	内ヶ崎 作三郎
同	矢本 平之助

同	菅原 英伍
同	小山 倉之助
福島	栗山 博
同	金沢 安之助
同	菅村 太事
同	林 平馬
同	比佐 昌平
岩手	柵瀬 軍之佐
青森	工藤 鉄男
同	長内 則昭
山形	黒金 泰義
同	佐藤 啓
同	奥山 亀蔵
同	清水 徳太郎
秋田	町田 忠治
同	田中 隆三
同	榊田 清兵衛
福井	松井 文太郎
同	添田 敬一郎
同	熊谷 五右衛門
石川	永井 柳太郎
同	桜井 兵五郎
富山	野村 嘉六
同	寺島 権蔵
同	山田 毅一
同	松村 謙三
鳥取	三好 栄次郎
同	谷口 源十郎
島根	木村 小左衛門
同	桜内 幸雄
同	原 夫次郎
同	俵 孫一
岡山	小川 郷太郎
同	西村 丹治郎
広島	藤田 若水
同	森保 祐昌
同	山道 襄一

同	宮原 幸三郎
同	作田 高太郎
同	横山 金太郎
山口	藤井 啓一
同	沢本 与一
和歌山	山崎 伝之助
同	中村 啓次郎
同	小山 谷蔵
徳島	原田 佐之治
同	真鍋 勝
同	高島 兵吉
香川	小西 和
同	戸沢 民十郎
同	松田 三徳
愛媛	小野 寅吉
同	村松 恒一郎
高知	浜口 雄幸
同	富田 幸次郎
同	下元 鹿之助
同	大西 正幹
福岡	中野 正剛
同	大里 広次郎
同	吉田 磯吉
同	臼田 久内
同	勝 正憲
同	末松 偕一郎
大分	一宮 房治郎
同	松田 源治
同	重松 重治
佐賀	福田 五郎
同	森 峰一
同	西 英太郎
熊本	小橋 一太
同	平山 岩彦
同	大麻 唯男
同	深水 清
同	安達 謙蔵

宮崎	二見 甚郷
同	鈴木 憲太郎
同	三浦 虎雄
同	水久保 甚作
鹿児島	床次 竹二郎
同	岩切 重雄
同	蔵園 三四郎
同	原 耕
同	東郷 実
同	寺田 市正
同	赤塚 正助
同	崎山 武夫
同	津崎 尚武
沖縄	漢那 憲和
同	伊礼 肇
同	花城 永渡
北海道	中西 六三郎
同	山本 厚三
同	坂東 幸太郎
同	浅川 浩
同	平出 喜三郎
同	岡本 幹輔
同	神部 為蔵
同	小池 仁郎
同	前田 政八

無産党議員団(8名)

東京	安部 磯雄
京都	水谷 長三郎
同	山本 宣治
大阪	西尾 末広
同	鈴木 文治
兵庫	河上 丈太郎
福岡	浅原 健三
同	亀井 貫一郎

明政会(7名)

兵庫	藤原 米造
三重	岸本 康通

	愛知	椎尾 弁匡
	同	山崎 延吉
	長野	小山 邦太郎
	岡山	鶴見 祐輔
	福岡	大内 暢三
実業同志会(3名)	大阪	武藤 山治
	千葉	千葉 三郎
	岐阜	河崎 助太郎
各新党(3名)	兵庫	清瀬 一郎
	京都	田崎 信蔵
	新潟	大竹 貫一
無所属(7名)	新潟	堤 清六
	埼玉	長島 隆二
	奈良	福井 甚三
	三重	尾崎 行雄
	宮城	守屋 栄夫
	和歌山	田淵 豊吉
	北海道	檀野 礼助

なお閉会までに次のような移動があり、開会時には、民政党が2名減の214名、革新党1名減の2名、無所属が2名増の9名、欠員が1名ふえて2名となった。

死亡→欠員 武藤金吉（政友・群馬）

民政党→政友会 武藤七郎（群馬）金沢安之助（福島）

政友会→無所属 元田肇（大分）議長就任のため

革新党→無所属 清瀬一郎（兵庫）副議長就任のため

三つの「国難」決議案

第五五議会の開院式は4月23日に行われ、25日の田中首相兼外相及び三土蔵相の演説で実質的な審議が開始さ

れた。この間野党側ではキャスティングボートを握った明政会が、政治的国難に関する決議案・経済的国難に関する決議案の2つの決議案を作成し、22日から民政党などとの交渉を始めていた。また無所属の尾崎行雄は独自に思想的国難に関する決議案を準備していた。しかしこれらの小会派・無所属の動向は必ずしも民政党に同調するものでなかった。

まず思想的国難に関する決議案が、25日即位大礼関係追加予算案が可決されたあと、議事日程を変更して上程されたが、その内容は共産主義の蔓延を防ぐためには環境の改善が不可欠であることを強調したものであった。しかしそのねらいは、政争の激化を環境悪化の原因の1つとしているように、11月に予定されている即位大礼の前にして、倒閣運動やそれに対抗する再解散などの政争を避けることを与野党に求めるものであり、必ずしも野党的立場に立つものではなかった。このさして政治的効果のない決議案はすんなり可決されたが、次の政治的国難に関する決議案は、鈴木内相に対する弾劾を含むものであり、その成否はこの議会の最大の焦点となった。

この決議案は、6項目より成り選挙干渉の責任を追求して内相を弾劾するだけでなく、公正な選挙を実現するための政策を掲げたものであった。明政会からこの案につき交渉をうけた民政党側は、最初内相弾劾案と政策決議案とに分離することを求めたが、結局若干の字句の修正だけでこの案に同調し、「内相ノ処決其ノ他ニ関スル件」（速記録第6―67頁参照）として提出された。その際、民政党による修正の主なものは、第4項末尾の「かつ検事を司法大臣より独立せしめんことを期す」とされていた部分を削除したことであった。この決議案は、4月28日治安維持法改正案第一読会などの後、いよいよ午後4時すぎからの本会議に上程されたが、その成立を阻止できないとみた政府側は、3日間の停会を奏請、尾崎行雄の趣旨弁明演説が終了するや停会の詔書が下された。

政府側はこの間、議会閉会後の鈴木内相の辞職を条件として明政会に決議案撤回を求めるなどの交渉を行ったと伝えられたが、結局局面を開くことは出来ず、停会あけの5月1日再び3日間停会の措置をとった。しかもはや議会乗り切りの方法は鈴木内相の辞職以外になくなり、内相も5月3日正式に辞表を現出、田中首相が当面内相を兼任することにした（4日任命）。

再停会明けの5月4日の本会議では、白川陸相の済南事件の報告と、民政党・水井柳太郎の質問をはさんで、いわゆる政治的国難に関する決議案の密議が行われ、内相弾劾の語句を「将来此ノ如キ非違ヲ再現セシメサランコトヲ期ス」と修正のうえ可決された。明政会が削成したもう一つの経済的国難に関する決議案も、5月5日の本会

議に上程されたが、すでに民政党との交渉で、総歳出の一割節約などの具体策が削除されていたため、翌日には採決の結果、可決されている。会期最終日の5月6日になって民政党が提出した内閣不信任決議案が本会議に上程されたが、すでに明政会等は内相辞任で満足していて通過の見込なく、採決に入らずにおわっている。

会期末の問題はむしろ政府が4月28日に提出した総予算追加案第五号であった。その内容は、これまで主要都市をもつ府県などに限られていた特高警察を全国に拡充することなどを目的とする警察費増額と、第二次山東出兵の費用であった。政府は、本議会召集日の4月20日出兵声明を発し、第二次山東出兵を強行していたが、議会停会中の5月3日には済南で中国軍との衝突がおこっている。そして民政党はこの済南事件をきっかけに田中内閣の出兵政策への批判を強めており、従って第五号追加予算の密議も難航した。予算委員会では5月5日質疑打ちりの動議が出されたが、31票対31票の可否同数となり、結局委員長の裁決で質疑を打ち切り、民政党・無産党委員退席のまま、与党委員のみで原案通り可決するという事態に至っていた。しかし野党側はそれ以上に追求する力がなく、追加予算は成立したが、議会閉会の翌6月には張作霖爆殺事件がおこり、対中国政策をめぐる対立は、次の議会での大きな問題となって行くのであった。

結局この議会では、与野党勢力の接近のため紛糾するとみた政府側が、現出案件を最少限度にしぼったため、追加予算案以外には法律案7件が成立したにとどまった。追加予算案は前述の山東出兵費・思想警察費などのほか、議会解散のため昭和3年度予算が未成立に終わり、前年度予算を施行したことに件うものであった。

治安維持法改正案は委員付託となったが、委員長を野党（民政党・横山勝太郎）にとられたため、殆んど、委員会も開かれないままに審議未了となった。しかし議会閉会后、同法改正を緊急勅令で実現しようとした際には、枢密院側はこの点を問題とし、それはどの重要法案ならなぜもっと議会の審議を促進し、会期を延長してもその成立を図ろうとしなかったのか、と政府を追及するにいたっている。

（古屋哲夫）